子どもたちの未来のために

2011年3月　東京電力福島第一原子力発電所の事故により、
放射性物質が放出されました。

チェルノブイリ原発事故で子どもの甲状腺がんが増えたことから、
福島県は子どもたちの甲状腺の状態を把握し
子どもたちの健康を長期に見守ることを目的に
事故当時18歳以下で福島県にいた38万人を対象に
2011年10月から甲状腺検査を実施してきました。

これまで福島県県民健康調査「甲状腺検査」で
甲状腺がんと診断された人は200人を越えています。

3・11甲状腺がん子ども基金は
皆さまからのご寄付により運営しているNPOです。

国の研究機関が発表した、放射性ヨウ素拡散シミュレーション図に基づいて
福島県を含む1都15県で、事故後に甲状腺がんと診断された
18歳以下の人に、療養費を給付しています。

1人ひとりの声をお聴きし、不安や悩みが解決できるよう、
そして、子どもや若者たちが心身共に健康な生活ができるようサポートをしています。

NPO法人3・11甲状腺がん子ども基金

【事務局】〒160-0003
東京都新宿区四谷本塩町 4-15 新井ビル 3階
☎ 03 5369 6630
info@311kikin.org

【ご寄付】
●郵便振替
記号番号　00100-3-673248
口座名　　3・11甲状腺がん子ども基金
●銀行振込
城南信用金庫　営業部本店
普通預金　847987
特定非営利活動法人 3・11甲状腺がん子ども基金

NPO法人3・11甲状腺がん子ども基金

2019年度活動報告書

3・11甲状腺がん子ども基金
3・11 Fund for Children with Thyroid Cancer

ごあいさつ

新型コロナウイルス（COVID-19）感染症の世界的大流行の中、みなさまいかがお過ごしでしょうか？当基金でも2月に計画しておりました交流会が延期を余儀なくされるなど色々影響を受けております。今年度は、台風,豪雨による災害に見舞われた地域もあり、被災された受給者へのお見舞いをいたしました。また、2020年度の活動に入りますが、コロナ被害に対する支援など、療養費という枠を超えたサポートもいたしました。

福島県で行われている県民健康調査による甲状腺検査では2020年3月末迄に悪性ないしその疑いと診断された方は241人と発表されています。そのうち、一巡目の検査で116人、二巡目では71人になっています。県民健康調査検討委員会は甲状腺がんの多発と認めてはいますが、両者ともに放射線被ばくとの関連性は考えにくい、あるいは関連は認められないとしています。当基金の活動の中で、県民健康調査でがんが発見されても検討委員会に報告されず、分析にも加えられないケースが多数あることが明らかになりました。正確な罹患者数に基づかない分析に対する専門家からの厳しい批判もあり、検討委員会の中にも結論を出すのは早すぎるとする委員もいます。

事故後9年が過ぎても、人災とされる東電原発事故の責任は誰もとっていませんし、被害の実態も明らかにされないまま日常に埋没されようとしているかに見えます。ましてや海外に於いて甲状腺がんの多発の問題は知られていません。原発事故は日本だけの問題ではありません。今後のためにも日本における事故後の実情を海外にも発信してゆきたいと考えております。

このような活動が継続できますのも、ひとえに国内外の多くのみなさまからの温かいご理解、ご支援のたまものと心より感謝申し上げます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

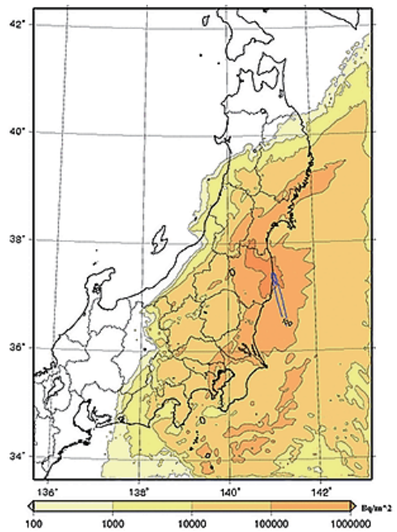
NPO 法人3・11 甲状腺がん子ども基金
代表理事　崎山比早子

（医学博士、東京電力福島第一原子力発電所事故調査委員会［国会事故調］委員）

療養費給付事業

東京電力福島第一原発事故以降に甲状腺がんと診断された方に、療養費として経済支援をしています。国の研究機関が発表した放射性ヨウ素拡散シミュレーション図に基づいて、福島県を含む1都15県で甲状腺がんと診断された人に療養費を給付しています。

療養費の使途は、医療費にかぎらず自由です。手術前後の検査や体調不良のために仕事やアルバイトを休んだり、保護者が通院や手術立ち合いのために仕事を休んだりされていることもあり、医療費以外の出費もかさむからです。当事者のQOL向上のため、傾聴に根ざして一人ひとりの不安や悩みにこたえられるサポートをめざし、活動しています。



日本原子力研究開発機構による放射性ヨウ素拡散シミュレーション図
（2011年3月末時点）

対象者は？

甲状腺がんと診断された方のうち、原発事故当時（2011年3月）に18歳以で、以下の地域に住んでいた方が対象です。

対象の都県

- 秋田県
- 岩手県
- 山形県
- 宮城県
- 福島県
- 茨城県
- 栃木県
- 群馬県
- 埼玉県
- 千葉県
- 東京都
- 神奈川県
- 新潟県
- 長野県
- 山梨県
- 静岡県

給付金額は？

基本の給付金額は表のとおりですが、他にも、ひとり親の方への付加給付や通院交通費の助成など、さまざまな支援を行っています。

基本給付

甲状腺がんと診断された方　**10万円**

追加給付

再発・転移等による再手術を受けた方	アイソトープ治療を受けた方	アイソトープ治療複数回の方
10万円	10万円	2回目以降1回につき 5万円

アイソトープ（RI）治療とは

RI治療とは、甲状腺がん細胞が肺など遠隔の組織に転移した場合に、放射性ヨウ素のカプセルを飲んでがん細胞を破壊する治療です。甲状腺全摘後、再発を防ぐ目的で残った甲状腺組織を取り除くために行うアブレーション治療も含まれます。

再手術とは

再発や転移によるもののほか、甲状腺がんの種類や治療上の判断によって手術が複数回になったケースも含まれます。

第4期療養費給付事業

第4期である2019年度には、原発事故当時18歳の方が27歳になることから、対象年齢を引き上げ、2019年度に満27歳になる方までを支援しました。さらに今年度は、アイソトープ治療複数回の方への追加給付を加え るとともに、通院交通費（上限年5万円）助成の新設により遠距離通院の方たちを支援しました。さらに、東北を中心に台風の被害が大きかったことから、台風被害のお見舞いにも取り組みました。

【第4期給付実績】（ 2019年4月1日～2020年3月31日までの申請分）

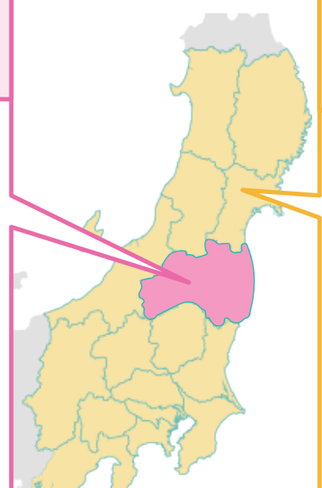
新規申請：事故当時福島県にお住まいだった方	8人
事故当時 福島県以外の1都14県にお住まいだった方	4人
再手術への給付：	2人
アイソトープ治療への給付（複数回治療を含む）：	7人
特例（ひとり親などの事情のある方および、対象範囲外の年齢の方で特段の事情のある方）：	5人
台風被害お見舞い	13人
交通費助成	31人

2019年度給付金額 合計 約546万円
（うち台風被害お見舞い84万円、通院交通費62万円）

「手のひらサポート」で支援した人は、第1期～第4期の合計で161人
給付総額は約2500万円になりました。（事故当時18歳以下の方の合計）

原発事故当時 福島県に在住
105人

福島県は、国の予算によって県民健康調査を行っており、その中の詳細調査のひとつとして、甲状腺検査があります。原発事故当時概ね18歳以下だった38万人を対象に、20歳までは2年に一度、それ以降は5年に一度、超音波による検査を行っています。この検査のなかで「甲状腺がんまたはその疑い」と診断された人は、2020年3月末までに241人となっています。
基金には、県民健康調査の甲状腺検査以外で甲状腺がんと診断された方からも申請が来ています。



事故当時 福島県以外の
1都14県に在住
56人

基金の給付対象地域である1都14県では、福島県のような大規模な甲状腺検査は、ほとんど行われていません（自治体の検査で甲状腺がんが見つかったという方は数人いらっしゃいます）。これらの地域では、自覚症状や他の病気があって受診した際に見つかった方、大学や企業での検診で精密検査を勧められ、その後の受診で甲状腺がんが見つかったという方からの申請がほとんどです。その場合、検査で見つかるものよりは進行した状態で見つかることが多くなります。

調査に基づいて

ヒアリングによって把握できた現状に対応
追加支援を新設

①2回目以降のアイソトープ治療毎に5万円の追加給付を新設

これまで基金では、甲状腺がん手術後のアイソトープ治療に10万円の給付を行ってきました。ヒアリングで、アイソトープ治療を複数回受けている方がいることがわかったことから、2回目以降のアイソトープ治療への追加支援を新設し、今期、6人の方に追加給付を行うことができました。

②年間5万円を上限に、甲状腺がん手術後の通院交通費助成制度を新設

事故から9年。事故当時の小学6年生は20歳になっています。福島県では、18歳を過ぎると進学や就職のために地元を離れる人も増加します。甲状腺がん手術後の治療（投薬）や経過観察のために、転居先から福島県の主治医のもとへ遠距離通院されている方も増えています。そこで、通院交通費の助成を開始しました。

手術後は、医療費よりも通院費に負担を感じている人も少なくありません。「基金の通院交通費助成は大変助かります」という声が届いています。基金では、福島県に通院交通費のカバーを働きかけています。

福島県では、子ども医療費助成制度により、18歳までは保険診療の医療費が無料です。
県民健康調査で見つかったがんについては、19歳以降の保険診療費は、県の「甲状腺検査サポート事業」で申請すれば、県から交付されます。
通院交通費は対象外です。
※サポート事業の財源は環境省の交付金です。

台風被害支援

2019年は激甚災害に指定される台風と大雨が、東北各地に甚大な被害をもたらしました。台風被害のあった宮城県と福島県、神奈川県に在住している受給者とその御家族に、10月16日から電話での聴き取りを開始。あわせて、健康状態や進路などについても聴き取りをしました。大規模半壊、床上浸水などの被害があったことから、台風災害被災お見舞い金を出すことに決定。申請のあった13人の方にお見舞い金をお渡ししました。

郡山市
2019年11月3日 撮影

- 家屋全壊や大規模半壊などの被害 10万円
- 床下浸水などの被害 5万円
- その他の被害 3万円

※家屋全壊・大規模半壊などの被害5人、床下浸水などの被害5人、その他の被害3人、計13人にお見舞金84万円を給付いたしました。

相談とフォローアップ

傾聴とつながりという直接支援

◎当事者へのヒアリング 電話やメールが繋がった瞬間から…

ご自身またはお子さんが突然に甲状腺がんと診断された時の戸惑いや不安、悲しみは計り知れません。がんと告知されたばかりの方、手術が近い方、転院を考えている方…電話やメールで繋がった瞬間から、私たちの支援は始まります。申請はもちろん、誰かに聴いてほしかったとか、病院では聞けなくて…という悩みなども傾聴して情報を提供したり、専門家をご紹介するようにしています。
これまでの4年間で161人に療養費を給付してきたからこそできる支援があります。

セカンドオピニオン 転院先の情報提供

セカンドオピニオンや転院を希望される方がいることから、情報提供や相談をおこなうこともあります。
2019年度も日本女医会東京都支部連合会会長で基金の理事である渡邉弘美先生に御指導いただき、セカンドオピニオンを希望されていた方が転院され、無事に手術が成功しました。

通院状況の把握・サポート

進学や就職などで親元を離れている方に、通院状況などを定期的にヒアリングしています。福島県の「甲状腺検査サポート事業」対象者でこの制度を知らないという方にはお知らせし、基金が新設した通院のための交通費も助成することができました。

AYA世代のがんと就職について

転職や再就職を希望される方がいることから、がんと診断された方の就職状況について、「ハローワーク飯田橋」と「ハローワーク福島」へ赴き、「がんに罹患された方への就労」担当者から情報収集し、「AYA世代のがんの就職相談」について、当事者へ情報提供しました。

若者のためのつながりづくり

5月25日に企画ミーティング、6月29日にワークショップを開催。当事者の方が宮城県や福島県から参加してくださり、同世代同士で交流し、新しいつながりもできました。
このワークショップを発展させた企画が郡山市ファミリーフェスタへの出展企画に繋がりました。

プラバンで、甲状腺の形(蝶々)のブローチを作成➡

◎甲状腺がんを経験した子どもや若者、家族のつながり ～メディカルカフェ～

2018年度は東京で開催した「メディカル・カフェ」。ぜひ福島県内で開催してほしいという声から、8月3日(日)に、福島市にあるコラッセふくしまで開催しました。

前半は、甲状腺がん治療に長年御尽力されている医師による『若年者の甲状腺がん』についてのお話。後半は、お茶とおやつを楽しみながら、先生を囲んでの質問タイム。福島市の方に教えていただいたサンドイッチが美味しいと大人気でした。参加者全員にマイクをまわして自己紹介と質問。先生が全ての質問に答えてくださいました。

『メディカル・カフェ』後はニーズがあった相談タイム。弁護士による勉強会とミニ法律相談で盛り上がりました。

◎春フェス大交流会は新型コロナウイルスの影響で延期に

2020年2月24日(日)に予定していた春フェス大交流会は、新型コロナウイルス感染の影響で延期といたしました。今回は当事者の皆さんがご自身の体験談を話してくださる予定でした。楽しみにしてくださっていましたので、リモート開催など、工夫しながら実現していきたいと思います。

◎ てのひらレターで情報共有

療養費給付事業で繋がった当事者やそのご家族にむけ、『てのひらレター』(季刊)をお送りしています。当事者である若者たちが、「メディカル・カフェ」参加者の感想や写真を選んだりするなど、内容を考えてくれました。

◎ 医師による電話相談

日本女医会東京都支部連合会に御協力いただき、2017年から継続してきた医師による「1日無料電話相談」を今年度も9月と3月に開催することができました。

3月の電話相談では精神保健福祉士が加わり、精神保健分野に該当するお子さんに関する相談に専門的に対応することができました。医師の皆さんは新型コロナウイルスに対する不安にも対応してくださいました。

NHK NEWS WEB
福島 NEWS WEB
甲状腺がん　無料電話相談
03月08日　12時35分

情報発信・普及啓発

県民健康調査甲状腺検査に関して記者発表
（2019年7月24日、東京、福島）

基金は7月24日に記者発表を行い、県民健康調査の甲状腺検査を受け、がんの手術をしても検査結果に含まれない人がいることを報告しました。

原発事故のあと福島県は、県民健康調査を福島県立医大に委託して実施しており、県民健康調査の実施・評価などに関しては専門的助言組織として、有識者による検討委員会を設置しています。甲状腺検査は、被ばくの影響を受けやすいとされる事故当時18歳以下のおよそ38万人を対象に、20歳までは2年に一度、それ以降は5年に一度行われています。2019年7月の検討委員会では、「甲状腺がん/疑い」がある方はこれまでに218人と報告されましたが、検査3巡目の結果には、事故当時4歳以下の方は含まれていませんでした。しかし4月に基金は、3巡目の検査を受け県立医大病院で甲状腺がんの手術を受けた、事故当時4歳の方から療養費の申請を受けていました。この方は7月の県の集計に含まれず、検討委員会に報告されなかったのです。基金はこの事実を県民健康調査課に報告したうえで、県民健康調査甲状腺検査は正確ながんの人数の把握ができていないという問題点の改善を記者発表で訴え、NHKや共同通信社、新聞各紙、ヤフーニュースなどで福島県はもちろん、全国に報道されました。

しかし実は、2巡目検査結果でも同様の例が存在し、基金は既に2017年に問題提起していたのです。

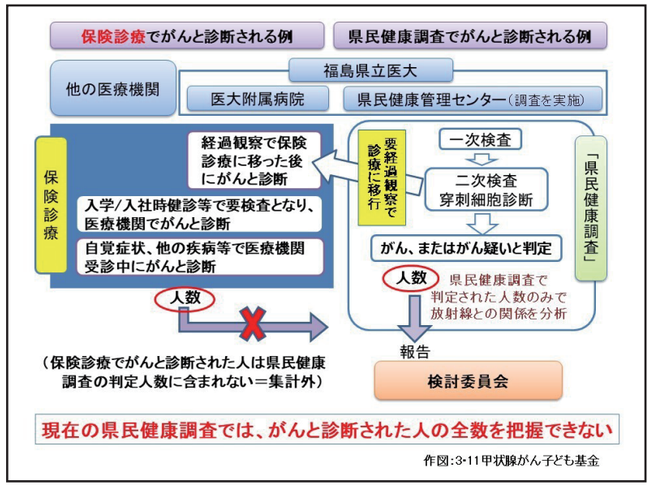
◎2017年に発覚した「集計外」の存在

2017年、基金の療養費給付事業から、2巡目の検査を受け福島県立医大病院で甲状腺がんの手術をした、事故当時4歳の方が、検査で判明した人数に含まれていないことが明らかになり、この事実を記者発表しました。当時この報道を受け、検討委員会では、県立医大病院で甲状腺がんの手術をしているが、甲状腺検査結果に含まれていない例の報告を求める声が、委員からあがりました。その結果、県立医大は検討委員会に報告されていない「集計外」の甲状腺がんの方が、2017年6月末時点で11人いたことを発表しました。それ以降「集計外」の発表はなかったのですが、今回、「集計外」の例が引き続き存在していることを、基金は示したわけです。

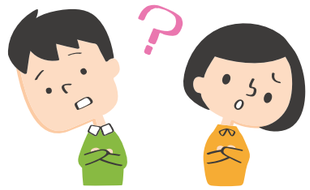
◎検討委員会に報告されない理由

なぜ「集計外」とされる人が出てくるのでしょうか。県や県立医大の説明によると、県民健康調査は二次検査までが範囲で、そこで「がん/疑い」と判定された人数が発表されています。二次検査で判定に至らないものの、「経過観察（診療）が必要」と判断された人は、保険診療となります。その診療中に「甲状腺がん」と診断された場合、保険上の患者情報（診療情報）となり、県民健康調査の結果に含まれないのです。また、入学・入社時健診で要精密検査となったり自覚症状で受診し、診療中にがんと診断された方も、県民健康調査としては把握されません。

甲状腺がんの正確な人数は、福島県立医大のみならず、全国の病院を対象にしなくてはなりません。現在の県民健康調査は、原発事故後の甲状腺がんの全数を把握できる仕組になっていないのです。



◎ 全数を把握せずに分析・評価ができるのでしょうか・・・

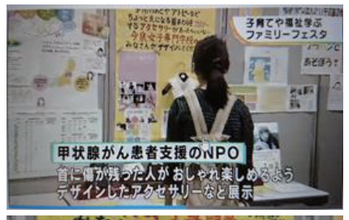


検討委員会は、1巡目の検査で発見された甲状腺がんと被ばくの関連について「被ばく線量が総じて小さい」ことなどを理由に「放射線の影響とは考えにくい」としていました。2巡目は、UNSCEAR（国連原子放射線影響科学委員会）で公表された年齢別や市町村別の推計被ばく線量を解析に使ったうえで、「甲状腺検査本格検査（検査2回目）に発見された甲状腺がんと放射線被ばくの間の関連は認められない」と発表しました。しかし、原発事故後の甲状腺がんの総数を把握しないで、放射線との関係の分析評価ができるのでしょうか。検討委員の中にも、「因果関係は肯定・否定とも断言できない」という意見もあります。基金のヒアリングからは、「県民健康調査を受けているのに、検討委員会で発表される数に含まれていないのは納得がいかない」という当事者の声があがっています。

検討委員会では、検査とは別に自治体が医療機関を通じてがん患者の情報を集める「地域がん登録」や「全国がん登録」などを利用し、甲状腺がんの実情を把握することも必要であるという意見が出され、議論や検討がされています。

県民健康調査の目的は、「県民の被ばく線量の評価を行うとともに、県民の健康状態を把握し、疾病の予防、早期発見、早期治療につなげ、将来にわたる県民の健康の維持、増進を図ること」です。基金は、現在の甲状腺検査の仕組が甲状腺がんの全体像を把握できないデザインであることを問題提起し、福島県県民健康調査課、検討委員会や甲状腺評価部会の委員、福島県議会議員への働きかけを行ってきました。これからも、子どもや若者たちの健康のために活動していきます。

地域に密着した発信



2017年から毎年出展している、郡山市の健康福祉フェスティバル「ファミリーフェスタ」に2019年度も出展し、当基金の活動内容の紹介、甲状腺がんや甲状腺検査についての展示を行いました。

郡山市は人口も多いことから、県民健康調査甲状腺検査を受けている方も多く、検査や甲状腺がんについて生の声をお聴きできる貴重なイベントです。当日は、甲状腺検査を受診しているお子さんや保護者から直接にお話をうかがうことができました。

このイベントには小さいお子さん連れの方も多く来場されるので、親子で参加できるワークショップを開催。甲状腺が蝶々の形をしていることから、プラ板で蝶々の形のストラップを作り、甲状腺の形を身近に知ってもらうことができました。

福島県初（1920年創立）の服飾専門学校である「今泉女子専門学校」のご協力で、手術後の傷跡もさりげなくカバーして、おしゃれを楽しめる「ネックアクセサリー」の試作品も展示しました。この模様はNHKニュースで報道され、甲状腺がんと患者の存在を知ってもらう場となりました。

今回の企画については、甲状腺がん当事者の若者が、デザイナーと一緒に蝶々のデザインとロゴを考え、事前にプラ板のワークショップも体験。ファミリーフェスタ当日は、スタッフとして参加してくれました。

甲状腺の働きやがんについての質問にも、ていねいに説明することができました。「検査は学校で受けていますが、よくわかっていなかったので、知ることができてよかった」という感想をいただきました。

メディア掲載
～報道されました～

4月11日(木)　**共同通信「遠方からの通院交通費を追加支援　甲状腺がん子ども基金」**
福島民報、福島民友、河北新報、ヤフーニュース、朝日新聞、毎日新聞、中日新聞、福井新聞、京都新聞、愛媛新聞、四国新聞ほか多数掲載

7月24日(水)　**NHK「福島県の甲状腺検査　がん・疑い17人が報告漏れの可能性」**
9時台　NHK福島ローカルニュース
13時　NHK全国ニュース
17時台 NHK福島『はまなかあいづ』内
18時台 NHK全国『シブ5時』内
21時台 NHK全国『ニュースウォッチ9』
NHKWEBNEWS、NHKラジオ第一、NHK国際報道

共同通信「甲状腺がん18人が集計漏れか　福島の子ども健康調査」
河北新報、秋田魁新報、東奥日報、ヤフーニュース、毎日新聞、北海道新聞、福井新聞、中日新聞、奈良新聞、京都新聞、神戸新聞、山陽新聞、西日本新聞、中國新聞、四国新聞、大分合同、宮崎日日新聞、琉球新報

7月25日(木)　**福島民報「18人の集計漏れ指摘　甲状腺検査で東京のNPO」**
福島民友「甲状腺がん、18人が集計外か」
朝日新聞「福島県の甲状腺検査、18人が集計もれかNPOが発表」(奥村記者記名記事)
沖縄タイムス「甲状腺がん　集計もれか、福島の健康調査」

9月21日(土)　**毎日新聞「甲状腺がん　あす電話相談」**
(WEBサイト、福島、栃木、千葉、埼玉、神奈川、東京、長野版に掲載)

9月26日(木)　**韓国放送　「福島の小児甲状腺癌の67倍.子供が消えた村」**

9月30日(月)　**NHK福島ニュース、WEBNEWS「子育てや障害者福祉学ぶイベント」**
甲状腺がん患者支援のNPO「3・11甲状腺がん子ども基金」が甲状腺がんの治療で首に傷が残った人におしゃれを楽しんでもらえるよう、専門学校の学生がデザインしたアクセサリーが展示されたと報道

3月2日(火)　**光文社『STORY』震災から9年、人々が再びそして新たに繋がるために**

3月5日(木)　**朝日新聞「甲状腺がんで電話相談」(都内版)**
毎日新聞「3・11甲状腺がん子ども基金電話相談」
都内版と千葉版に掲載

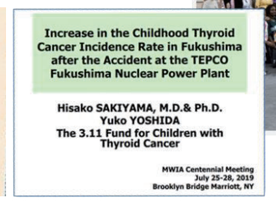
3月7日(土)　**河北新聞(福島版「3・11掲示板」)**
毎日新聞　「福島第一原発事故　甲状腺がん無料相談、あす医師ら電話受付」(宮城版)

3月8日(日)　**NHK東北ニュース内「甲状腺がん無料電話相談」**
NHK福島ニュース内「甲状腺がん無料電話相談」
NHKNEWSWEB「甲状腺がん無料電話相談」
毎日新聞「甲状腺がんなど、きょう電話相談、子ども基金」(秋田版)

国際女医会で代表理事が発表 ポスター発表部門第3 位に

7月25～28日、NGO「Medical Woman's International Association(国際女医会)の100回記念大会がニューヨークで開催され、崎山比早子基金代表理事が日本女医会の会員として参加し、福島の子どもたちの甲状腺がんの現状について、海外の医療関係者に向け発表しました。この発表はポスター部門で第3位に入賞しました。

表題:「東電福島原発事故後の福島での子どもの甲状腺がん罹患率の増加」(共著:崎山比早子・吉田由布子　3・11甲状腺がん子ども基金)



第3位の賞状(左)
発表ポスター表紙(右)

リーフレット、WEB サイトのリニューアル

基金は設立から4年がすぎていますが「こういう支援団体があったのですね」と言われることもしばしば。まだまだ知られていません。

より多くの方に知っていただくために、リーフレットやPRカードを作成して、手にとってご覧いただき、また皆さんの手から手へ、語って広めていただいております。

WEBサイトとデザインを統一させた、新リーフレットが完成しました。新しいリーフレットは2WAYタイプ。病院や学校、お店などに置いていただく場合は三つ折りで、イベントやコンサートなどで配っていただく場合はA4サイズのままで。どちらでも使えるデザインにしました。福島県内の自治体の窓口やカフェ、映画館のほか、甲状腺検査をしているクリニックなど人が集まるところに置いていただいています。

新リーフレット

福島県三春町のカフェ「ライスレイクハウス」に新リーフレットを設置

◎WEB サイトリニューアル

インターネット環境は日々変化しており、スマートフォンでご覧くださる方が増えました。療養費給付対象である10代、20代はスマホ世代。

これまで療養費の申請や御寄付をくださった方からの問い合わせやご要望に応じて、基金のWEBサイトをリニューアルしました。

リニューアル後にはさっそくWEBサイトから申請や御寄付をいただいております。今後も「原発事故と甲状腺がん」など、新たなページを追加していきます。

リニューアルされた当基金の公式HPのPC(上)とスマホ(左)のトップ画面

あたたかいご支援があってこそ

2019年度もたくさんの皆さまから、ご寄付による御支援をいただきました。
設立当初から継続してご支援いただいている企業や団体、個人の皆さまには深く感謝し、御礼申し上げます。

「ぎふ美濃ゴルフ倶楽部」は、子どもたちのためにプロ・アマチャリティゴルフ大会を開催してくださっています。2019年10月に開催された大会のパーティ会場では、理事長の内田久利さまが甲状腺がんと診断された若者たちのことを涙ながらに披露してくださり、寄付を呼びかけてくださいました。

甲状腺がんと診断された子どもたちへの支援は海を越えて、海外からも届いています。カンボジアコミュニティ共同組合ネットワーク「るしな・こみゅにけーしょん・やぽねしあ」からは応援メッセージと共にご寄付をいただきました。

東日本大震災後にチャリティコンサートを開催されている「福島子どもプロジェクトベルリン音楽家有志」の皆さんが、2018年3月にベルリンでチャリティコンサートを開催してくださいました。2019年4月、代表の星秀圃さんがベルリンから来日し、当基金の武藤類子副代表理事の住む福島県三春町まで寄付を届けてくださいました。

また「福島子どもプロジェクトベルリン」に所属し、ベルリンで活躍されているピアニスト新井眞澄さんは日本で開催されたピアノセミナーで募金をよびかけ、ご寄付してくださいました。

東京在住の小学生から大学生までのオーケストラ「東京ジュニアオーケストラソサエティ」は、当基金の設立当初から、チャリティコンサートを開催してくださっています。3月にチャリティコンサートを開催。8月の定期演奏会では、会場に募金コーナーを設置して、御支援のよびかけをしてくださいました。

アメリカはバークリーでチャリティイベントをしてくださった皆さん、ほか、国内外の、音楽を愛するたくさんの方々から、ご支援をいただいています。

その他、「生活クラブ事業連合生活協同組合連合会」、坂本龍一氏をオーガナイザーとして2012年から開催されている「No NUKES2019」、「NPO法人エコメッセ」、「ラ・サール学園」「東洋英和女学院」の皆さん・・・たくさんの皆さまから温かいご支援をいただきました。ありがとうございました。

「新型コロナウイルス感染の影響でこれから経済が厳しくなるから、子どもたちを支援したい」と多額のご寄付をくださった方もいらっしゃいます。

昨年は賛助会員の方がお亡くなりになったと、お連れ合いからご連絡がありましたが、お香典を当基金へ寄付したいというお申し出があり、謹んでお受けいたしました。お連れ合いの御遺志をついで、賛助会員になってくださった方が複数いらっしゃいました。亡くなられた会員の方のご冥福をお祈りし、ご遺族による御支援に深く感謝し御礼申し上げます。

ぎふ美濃ゴルフ倶楽部

理事長
内田久利さん

るしな・こみゅにけーしょん・やぽねしあ松本清嗣さん（右）と崎山代表理事

「福島子どもプロジェクトベルリン」代表 星秀圃さん（右）と武藤類子 副代表理事（左）

ベルリン在住ピアニスト新井眞澄さん（中央）と崎山代表理事（左）

東京ジュニアオーケストラソサエティ

定期演奏会の会場で募金を呼びかけてくださる東京ジュニアオーケストラソサエティの皆さん

2019年度会計報告

貸借対照表（2020年3月31日現在）

資産の部	
現預金	39,109,919
貯蔵品	5,282
資産合計	39,115,201

負債の部	
未払金	606,430
預り金	47,565
正味財産の部	
正味財産額	38,461,206
負債及び正味財産合計	39,115,201

収支の内訳（自2019年4月1日　至2020年3月31日）

収入	
受取寄付金	17,509,655
受取会費	1,878,000
その他収益	55,143
収入の合計	19,442,798

支出	
事業支出	16,641,986
（うち療養費給付）	(5,460,738)
管理費	2,937,770
支出の合計	19,579,756

＊事業支出とは、基金のすべての事業にかかる経費です。なお、詳細な決算報告はWebサイトにて公開しています。

ご支援いただきありがとうございました

新型コロナウイルス感染拡大や豪雨災害で被害にあわれた方に心よりお見舞い申し上げます。コロナ禍による経済への打撃は大きく、これまで御支援くださっていたチャリティイベントなどが中止になり、当基金へのご寄付も厳しい状況です。今年度の事業展開や御寄付が減るなどの影響については、予測ができません。しかしながら、このような状況に影響を受けるのが疾患を持つ子どもや若者たちです。

これからも、一人ひとりの状況を聴き取り、サポートを続けていきます。引き続きご支援ください。

継続的なサポートをしてくださる方は、ぜひ賛助会員にご登録ください

賛助会員年会費

個人	一口	3,000 円
非営利団体	一口	5,000 円
企業	一口	30,000 円

【ご寄付】

●郵便振替
記号番号 00100 -3-673248
口座名　3・11 甲状腺がん子ども基金

●銀行振り込み
城南信用金庫　営業部本店
普通預金　847987
特定非営利活動法人 3・11 甲状腺がん子ども基金
(Webサイトの寄付お申込フォームのご記入をお願いします)

●クレジット決済も可能です

2020年度の取り組み

療養費給付事業第5期　支援の拡充・新設

対象年齢の拡充	**28歳まで**	今年度は、原発事故時18歳の方が28歳になります。療養費給付事業「手のひらサポート」第5期は、対象年齢の上限を28歳まで拡充して支援していきます。
妊娠出産支援金を新設	**AYA世代（思春期・若年成人）の甲状腺がんの支援として、妊娠出産の支援（5万円）** 【対象者】妊娠中の方、または、2019年4月1日以降に出産された方 ヒアリングにより、甲状腺がんの手術後に妊娠や出産をされた方が、妊娠中に産婦人科の他に甲状腺の外来に通院していたことがわかり、支援金を新設。甲状腺専門医にアドバイスをいただき、情報も提供していきます。	

「手のひらサポート」は皆さまのご寄付により、原発事故後に甲状腺がんと診断された方に、以下のような支援を実現できています。経済的支援のほかにも、情報の提供、相談事への対応など、2020年度も日々のサポートから始めることを心がけています。

甲状腺がんと診断された方	再手術を受けた方	アイソトープ治療を受けた方	アイソトープ治療複数回の方	手術後の通院交通費助成	妊娠・出産された方
10万円	**10万円**	**10万円**	**2回目以降 5万円 /回**	**年間上限 5万円**	**5万円**

※ 療養費給付の対象地域につきましては、2ページの地図をご覧ください。

原発事故から10年に向けて
当事者視点からの情報発信と甲状腺検査の検証に取り組みます

2021年3月で東電原発事故から10年になります。けれども、原発事故後に福島県で甲状腺検査が行われていて、甲状腺がんと診断された人がいることも、実はあまりよく知られていないのです。

事故当時小学6年生だったお子さんが、今は成人され社会に出ています。子どもや若者が体験してきた検査、がんの診断、手術、術後の経過観察。どんな思いで甲状腺がんを乗り越え、過ごしてきたのか。いま何を思い、何を必要としているのか…。

福島県県民健康調査甲状腺検査でがんと診断された後は「患者の個人情報」ということになり、検討委員会で当事者の思いを聞き取ったり、支援状況を検証したりする事はありませんでした。

原発事故後に甲状腺がんと診断された若者に起きていることは、個人的な問題ではなく、社会的な問題です。当基金は、皆さまからのご寄付のおかげで3年間で161人の子どもや若者を支援し、当事者やご家族の言葉を傾聴してきました。「自分の経験を誰かのために活かせたら・・・」と話してくださる方がいます。

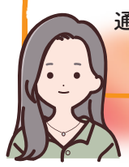
甲状腺検査、その分析や検証、甲状腺がん当事者への支援の仕組みなど、課題は今も山積しています。コロナ禍のため 状況に応じて臨機応変に対応しつつ、事故から10年に向け、当事者の視点からの情報発信・甲状腺検査の検証に取り組んでいきます。

緊急支援に取り組みました！
新型コロナウイルス感染対策への特別支援

2020年度は、新型コロナウイルス拡大のなかで始まりました。基金は2月24日に、受給者やご家族の交流の場『春フェス～メディカルカフェ』を予定していましたが、急きょ延期。3月から新型コロナウイルスの影響について聴き取りを開始したところ、影響がでている方がいることがわかり、2020年度の支援として、緊急に「新型コロナウイルス感染への特別支援金」を設定しました。皆さんがご自身の状況を伝えてくださり、99人の方に支援金491万円をお渡ししました。

特別支援金のお知らせチラシ

コロナウイルスの影響で会社の販売状況が落ち込み、収入は減少。
残業代を生活費（おもに固定費）に補てんしていましたが、残業がないため、固定費が重くのしかかっています。加えて、チラーヂンの処方があるため通院をなかなか延期することができず、通院費も今では負担になっています。見通しが立たない生活が不安で、不眠症になり、睡眠外来への通院で出費も痛手となっています。
26歳 女性



営業職の為、どうしても取引先に出向かなくてはならない時も多かったが、当初はマスクも手に入りにくかった。肺に転移があるためコロナ肺炎に絶対ならないように普通の人より予防に神経質になってしまっているとは思っておりますが、この先も気は抜けないと思っております。
25歳 男性

甲状腺専門委に聞きました：新型コロナウイルスと甲状腺がんQ&A

皆さんからの質問を甲状腺専門医にお尋ねし、Q&A形式でまとめ、受給者の方全員に送りました。

Q.甲状腺に疾患がある人が新型コロナウイルスに感染することで、甲状腺の機能に影響が出たりすることはありますか？

A. 新型コロナウイルスについては未だその詳細は不明ですが、現在のところ新型コロナウイルス感染が甲状腺機能に影響を与えるとする報告はありませんし、理論的にも考えにくいと思います。

誰かのためにできること 手作りマスクプレゼント 大好評！

受給者の中に、服飾を学ばれ、裁縫が得意な方がいて、「マスクがなくて困っている方のお役にたちたい」とマスクを作製してくれました。大好評でした！

マスクを受け取った方からの声

素敵なマスクですね！マスクがなくて困っていたのでとてもうれしいです。

ミシンがなく、不器用なのでマスクが作れず、マスクの値段が高くて金銭的にも厳しかったので、ありがたいです。

受給者のメンバーの方がマスクを作ってくださったのを見て、とても心強くなりました。